

■ 議題

今回の番組審議委員会は、10月5日（木）にデビューした新人・林みづきナビゲーターの『初日オープニングトーク（「ヒッツ・ヴォイス・オブ・ザ・コンパス」）』と、10月6日（金）放送「ヒッツ・デイリー・エクスプレス」内のコーナー『私たちにできる防災情報』、さらに10月12日（木）サテライト放送「市政情報番組 市役所からこんにちは」から『みんなで守る救急医療』を聴いて審議に入った。

■ 審議内容

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対する回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、聴取した内容についてでもよいし、普段聴いている放送についてでもよいので、順次、意見をお願いしたい。

川原委員： 『林ナビゲーター（新人ナビゲーター/当日の委員会に出席）のオープニングトーク』と先程の本人の自己紹介を聴いて、とても可愛らしく聴き取りやすい声だと思った。オープニングトークについては、緊張していて少し硬いのかなと思った。また、トークの中で「好きなこと」・「嫌いなこと」の話があったが、話し方のテンションが同じで単調な感じがしたので、抑揚があると良いと思った。

『私たちにできる防災情報』は、全体的に清田さんの話しが聴き取りにくく、時々聴き取れない部分もあったが、ともみナビゲーターが直後に内容を繰り返し伝えていて、何を話しているのかが分かりとても良いなと思った。内容については「季節に合わせた防災をするのが大事」ということだったが、特に冬場の話が多く、冬の間防災については分かったが、夏など冬以外の防災方法についての話がほとんど無く、冬以外はどうしたら良いのかなと思った。他の季節の防災についても詳しく知りたいと思った。

『みんなで守る救急医療』では、救急救命センター長が出演されていて、これまで市民があまり知ることの無かった、医師や看護師不足による時間外労働の話や、医療関係の仕事に就いている人の大変さを知る良い機会となった。話の中で、最終的に「（救急医療が）継続可能な社会にしていけることが大事」と言っていたが、内容が抽象的で、具体的には市民はどうしたら良いのか疑問が残った。

大萱委員長： 林ナビゲーターにはこれから頑張ってください。

『私たちにできる防災情報』に関しては、みなさん同じこと（清田さんの話が聴き取りにくい）を感じたと思う。ともみナビゲーターにフォローをしっかりとしてもらえるようお願いしたい。『防災関連のコーナー』は今後も毎週金曜日に続くのか？

会社側： シリーズとして続ける予定だ。指摘のあった内容については、これから冬に向かうため、冬の災害対策について特に強調して取り上げた。また暖かくなれば、その季節に合った対応・対策について取り上げる。

大萱委員長： 『みんなで守る救急医療』に関して内容は分かったが、タイトルに対しての答え、市民が取るべき具体的な行ないということになると、分からない部分があった。

会社側： 実は（聴取した内容には）後半部分がある。後半では救急車出動に関する話があったり、私たち市民はどのような行ないをすれば良いのかなど、まとめの話があった。今日は、時間の都合上、前半部分のみを聴いていただいた。

挾土委員： 初めて番組審議委員会に出席した。

私が気になったのは『林ナビゲーターのオープニングトーク』と『私たちにできる防災情報』のそれぞれBGMで、音がとても耳触りで声が聴きにくかった。大事なことを伝える部分になると、BGMのボリュームが異常に大きくなるような印象を受けた。もう少し選曲を考えていただくにより聴きやすくなると思う。コーナーの内容によっては、あまりBGMを気にかける必要も無いのかもしれないが、例えば目的が防災など、硬い内容の場合には特にBGMを考えたほうが良いと思う。

『みんなで守る救急医療』は、私はサテライトスタジオ（市役所）で、生で話を聴いていた。救急救命センター長の話は、非常に濃い内容で声も聴きやすかった。また、市民が市の医療の現状をよく理解できる内容だったと思う。現場で働く方が休みも取れず、そのまま手術を行うこともあるそうで、自分も手術を受けることがあるかもしれないと考えた時「軽傷なら救急車を使わないように」や「なるべく救急外来を使わないように」と言われることが市民に理解してもらえたと思う。

大萱委員長： BGMと声のバランスについては、内容によって選曲を変えたり、音量をもう少し抑えたほうが良いということなので、制作担当者に考えてもらいたい。BGMの音量は全て一律なのか？

会社側： そうだ。デジタルミキサーを使っているため、大よそのレベルは分かる（目視できる）が、途中で音が急に大きくなる曲もあり、その部分へくるとBGMが大きく聴こえたり、ナビゲーターの声がBGMの音量に負けてしまったりすることがある。ただ今回の試聴では、実際にここで私も聴いていて、あきらかにBGMの音が大きく聴きづらいと感じた。

大萱委員長： ヒッツFMではしゃべる際、基本的に全てにおいてBGMが流れるのか？

会社側： そうだ。AM放送では、今は分からないが、昔だとBGM無しでしゃべることがあったと記憶している。FM放送では元々、音楽をバックにトークをするという、ルールではないが、基本的にそのようになっている気がする。

私（大岩）も時々、ミキサーとして収録を行なうが、ほとんどのコーナーにBGMが付いている。ただ例えば『高山警察署だより』のコーナーで内容が振り込め詐欺の犯人役と被害者役に分かれて寸劇を行なう時などは、トーク中はBGMを付けるが劇中はBGMを付けず、集中して劇の中身を聴いてもらうよう心掛けている。今回試聴した『林ナビゲーターのオープニングトーク』と『私たちにできる防災情報』は制作担当者（宮ノ下）がBGMを付けた。担当者によって、BGMの音量の感覚が違うのかもしれない。

大萱委員長： 内容が分からないのは困るので、BGMと声のバランスについては、ぜひ検討してほしい。

志田委員： 『林ナビゲーターのオープニングトーク』を聴いて、私もアニメ声優ができるのではないかと思うくらい可愛いらしい声だと思った。ファンもたくさん付きそうだなと思った。初日で緊張があったのか、時々聴き取りづらい単語があったりしたが、自己紹介の中でインターネットラジオについてもさりげなく紹介していて素晴らしいなと思った。

『私たちにできる防災情報』は、他の方の意見と同じで、ナビゲーターが清田さんの話の中の重要なポイントを繰り返したり、まとめたりしてフォローしてくれたので、内容が分かりやすかった。

高山警察署員（志田委員は高山警察署の職員）も『高山警察署だより』でラジオ出演しているが、その時にはプロ（ナビゲーター）の力を借りないと、緊張して自分たちの言いたいことが言えなかったり、話し方もリスナーにとって聴こえにくかったりする。やはりプロの力は重要で、伝えたいことを伝える力になってくれているということを感じた。

志田委員：『みんなで守る救急医療』は、センター長の話し方がとても素晴らしく、またクイズ形式を取り入れるなどしていて興味深く聴くことができた。また「ええー！そんなに土日とか年末年始は多いんですかー！？」という驚きの声など、ナビゲーターとの掛け合いも良かった。今回試聴した内容ではないが、先日の選挙の開票日は、たまたま台風接近日と重なった。そして高山の話・ラジオの話ではないが、大阪のほうでは川が氾濫して大変だったのに、テレビで選挙の開票速報と当選の万歳しか流しておらず、防災情報はテロップで少し流れていくくらいで「住民が危険な時に、なぜ選挙の話題ばかり流すんだ」といった反感の声があったそうだ。選挙と台風が重なるのは珍しいが、今後そういったことが無いとも言いきれないので、そのような時の行動の有り方や、放送の比率を考えなければいけないと思った。

大萱委員長：もっともな意見だ。当日（開票日と台風接近日）は、宮ノ下ナビゲーターだったということなので、問題無く放送してくれたと思う。放送内容としては、淡々と情報を流しただけなのか？

会社側： そうだ。宮ノ下ナビゲーターが選挙速報・台風情報を伝えた。

蒲生委員： 皆さんと同じような意見になるが、まず『林ナビゲーターのオープニングトーク』は、初日で恐らく緊張していたのに一言も噛まず、丁寧な話し方でとても聴きやすかった。ただ、淡々とした話し方だったので、もう少しメリハリを付けた話し方だと良いと思った。

『私たちにできる防災情報』は、清田さんの声が少し聴き取りにくく分からないところもあったが、それをナビゲーターが上手く質問形式を取り入れることで、分かりやすく話をしていると思った。もし可能なら、清田さんの声をマイクで少し調整して聴き取りやすくできると良いと思った。

防災関係ということで少し国道事務所（蒲生委員は国土交通省高山国道事務所の職員）として話をすると、昨日の台風の影響で、11時から国道41号の神岡町辺りと富山県側の猪谷辺りを一時通行止めにした。国道事務所のほうでできるだけの対応はしたが、その影響で、その区間を通行中の方がトイレや食事に困ったりした。台風の時の移動については、通行止めの可能性も考えていただき、食料を確保していくなど備えをしてほしい。これから冬に向け雪での通行止めも考えられるので、気に留めておいて欲しい。

『みんなで守る救急医療』は、高山地域の医療の実情を知ることができ、良い内容だった。

大萱委員長： 台風に関しては、事前に情報を伝えることが大切だと思う。国道 41 号を含め、雨量規制で通行止めになる箇所が多数あると思うので、国道事務所と情報を共有しながら「通行止めになりました」ではなく、通行止めになる前に情報を伝えて欲しいと思うが「間もなく通行止めになります」ということはヒッツFMで分かるのか？

蒲生委員： 事務所が提供している‘ひだ道ガイド’というサイトに載せている。雨量が 150 ミリを超えると通行止めになるが、雨量が 120 ミリを超えると通行止めになる可能性があるという情報を流している。ただ、最近は何ラ豪雨が多く、120 ミリを超えたあと、直ぐに 150 ミリを超してしまうことが多く、課題となっている。

大萱委員長： その情報はヒッツFMに直接入るのか？

会社側： リアルタイムでは入らない。連絡をもらってから放送している。

大萱委員長： 台風の接近は分かることなので、事前に情報交換をお願いしたい。

原委員： 『林ナビゲーターのオープニングトーク』新人の林みづきナビゲーターは、本当に可愛いくチャーミングな声で、これからが楽しみだ。結構ファンも付きそう。色々と意見はあるが、最初から全て上手くやるのは無理だと思うので、自分のペースで頑張ってもらいたい。意外と度胸があると見受けられたので、大丈夫だと思う。

『私たちにできる防災情報』は、BGMがやはり大きく感じた。また、清田さんの話し方も少し聴こえづらく、何を話しているのかを考えながら聴いていたら、結局、内容が分からなくなってしまった。ゲストに話し方を直してもらいたいのは難しいと思うが、もう少しゆっくりと話してもらいたいなど、助言することはできないかと思う。

それから、以前より気になっていたのが、ともみナビゲーターのコーナー冒頭の説明部分だが、原稿（コーナー説明）を読んでいる話し方と本題に入ってから話し方とはっきりと違いがあって、特に原稿を読んでいる時のイントネーション・語尾が、私はずっと気になっていた。例えるならば、デパートのエレベーターガールが「次は何階〇〇売場です」というような話し方になる。清田さんと話している時は普通の話し方なので、すごく違いを感じて気になってしまう。ともみナビゲーターが清田さんの話を復唱しているのは、非常に分かりやすく良かった。

原委員：『みんなで守る救急医療』は、私は再放送を聴いたが、高山日赤の救急センターの現状について、非常に良く分かった。このようなコーナーは、市民に対しての意識の投げ掛けにもなると思うので、定期的に取り上げるなどして、是非、また話をさせていただきたい。

大萱委員長：『みんなで守る救急医療』は、素晴らしい内容だったという、皆の意見なので、無理の無い範囲でまた救命救急センター長に話を聞かせていただきたい。

ともみナビゲーターの話し方については、テクニク的なことかと思うが、他のナビゲーターも原稿を見て話す時と、普通に話をする時では多少トーンが変わるものなのか？

会社側：意識したことが無かったので、今後気を付けて聴いてみる。

大萱委員長：ニュースなど真面目な内容や、しっかり伝えたい内容の時は、トーンが変わっても良いと思う。今、指摘があったようにコーナーの冒頭が気になるなどテクニク的なことなら、ナビゲーター本人が解消できると思うので、他にもあれば是非教えて欲しい。清田さんの声は、マイクの問題では無く、声質の問題だと思うが、ボリュームを上げたら解消するものなのか？

会社側：マイクのボリュームを上げると、マイクにかかる息の音も大きくなり、声自体が分かり難くなる。実際収録に立ち会ったが、清田さんは少しハスキーな声なのか、年配の方なので、調整が難しかった。ただ、指摘については改善できるようにしたい。

田中委員：『林ナビゲーターのオープニングトーク』は、初日ということで、原稿をそのまま読んでいた感じを受けた。今後は、自分の言葉で伝えられるように期待したい。

『私たちにできる防災情報』は、やはり清田さんの声がこもって聴こえた。機材でカバーできるのであれば、検討して欲しい。また、防災グッズの紹介があったが、言葉で紹介するだけでなく、非常食を食べて感想を述べるなど、ナビゲーターが体験してみると面白いと思った。

『みんなで守る救急医療』は、実際に救命の現場で働いている方をゲストに迎えて話を聞いたのは、すごく重みがあって、また説得力もあると思った。救急医療に限らず、現場で働いている方に話を聞くことは、リスナーにとっても興味が湧くと思うので、続けて欲しい。

大萱委員長： 防災グッズなど、言葉だけで伝えるのは難しいが、ナビゲーターの目の前に実物があると説明がしやすいし、ナビゲーターが言葉だけでどのように伝えていくのかを考えることにもなるので、実際に物があると良いと思う。また、紹介したグッズがどこで買えるのかを伝えても良かったと思う。

田口委員： 『林ナビゲーターのオープニングトーク』は、私もすごく声が可愛らしくて素敵だと思った。現在、声優やアニメが若い人を中心に結構人気なので、ラジオを聴かない若い世代の人が林ナビゲーターのファンになって、ラジオを点けてくれたら良いなと思った。巫女をされていて、アルトサックスを吹いているという経歴もすごく面白いと思った。話し方に、まだナレーション感があるので、自分らしさが出てキャラクターが確立されると、林ナビゲーターの番組を聴きたいなというリスナーが増えると思う。

『私たちにできる防災情報』は、私も皆さんと同じ意見で、BGMの音量が気になった。それからBGMと内容が合っていないようにも感じた。ディナーをするようなおしゃれな店で流れていそうな曲だったので、防災の話とは合わないと感じた。内容はとても大事なことを言っていたのでそれがリスナーに上手く伝わると良いなと思った。

『みんなで守る救急医療』は、そもそもラジオに医者が出るのがとても新鮮だったが、これは良くあることなのか？

会社側： 無い。ただ、歯科医師会の先生には、月に1回出演していただいている。

田口委員： 医者が出ていることがとても新鮮に感じ、聴いてみようと思った。話し方もすごく上手で、内容も具体的な数字が出てきたりして分かりやすかった。医療に関しての話は、結局、全ての市民が自分に当てはまることだと思うので、このようなテーマだと、多くの人が興味を持って聴けて、良いコーナーだと思った。

大萱委員長： 私も選曲について意見があって、BGMはコーナーや内容によって曲が決められているのか？それとも、誰かがその度に選んでいるのか？

会社側： BGMは担当者が決めている。

大萱委員長： 内容が真面目な場合にバックで流す曲は、暗めな曲でも無いと思うし、かといって軽い曲でも無いし、非常に選曲が難しいと思う。内容によってBGMを変えることは必用だと思うが、難しいと思う。新人の林ナビゲーターはデビューから2週間以上経つが、どうか？

会社側：（林）まだ緊張している。

大萱委員長： 林ナビゲーターは番組内のBGMを自分で決めているのか？

会社側： BGMは全て一緒に入るミキサー（制作）が選曲している。流す曲のみ自分で選んでいる。番組オープニングのBGMや先程の『私たちにできる防災情報』で流れるBGMは、各番組担当が決めている。『私たちにできる防災情報』について言えば、事前収録なので、まず声だけを収録して、その後、BGMを付けている。

大萱委員長： BGMに関してはもう少し検討してほしい。

『林ナビゲーターのオープニングトーク』の中で林ナビゲーターが、家族の住む神岡町ではヒットFMが受信しづらいがインターネットラジオで聴けるということをさりげなく宣伝していて、上手いなと思った。

挾土委員： 配布資料の中に、ヒットネットTVとの共同企画で11月23日にサテライト放送をするとあるが、その中の‘地域ゆかりのゲストを迎えて’のゲストというのは決まっているのか？

会社側： 俳優の中田裕一さんと、シンガーソングライターの杉山修さんの出演が決定している。他にも何名か候補として挙がっている。

大萱委員長： ヒットネットTVとヒットFM、両社のパーソナリティー・ナビゲーターが進行するのか？

会社側： そうだ。そしてこのサテライト放送について、地元情報誌などに掲載をお願いしてある。また、互いの番組中でも番宣をする予定だ。

大萱委員長： 11月3日は映画『氷菓』の公開日だが、番組では取り上げたのか？是非、話題にして欲しい。

（久々野中学校の生徒が出演している）『おもてなしの英会話』は、久々野中学校の回だけで終了か？

会社側： 実はこれ以前に、松倉中学校の生徒がヒットFMへ職場体験学習で来ていて、その日がたまたま『おもてなしの英会話』の収録日と重なったため、急遽飛び入りで出てもらった。ただ、その時は、このコーナーを進行している田中部長の後に続けて、生徒に同じ発音をしてもらう程度の出演だった。

会社側： 久々野中学校の出演に関しては、田中部長がコーナーの冒頭に少しだけ説明をし、後は生徒とALTの方で進行している。収録は既に終わっていて生徒が約30人居たので、2人1組で15回に分けて放送する。1回あたり時間が3分程度で、火・水・木に放送する。久々野中学校が英語の指定校になっていると聞いている。生徒が外国人観光客にインタビューする案もあったが、段取りや時間的な問題で無理だと判断した。

大萱委員長： 良い企画だと思う。若い人にもラジオに参加してもらうのは大事だと思う。
他に意見が無ければ閉会する。

会社側： 本日は貴重な意見を頂き感謝している。ますます番組に反映したいと思う。

■ 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

10月24日 番組審議委員会の席上で説明

■ その他の参考事項

次回開催日 平成29年12月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）